

出典：新潟日報、上越タイムス、Wikipedia 他

◆ 藤野 正二 (ふじの しょうじ / 1939.8.4~)

〈写真家 / ネパール学校支援活動家〉

昭和14(1939)年、新潟県高田市(現 上越市)南本町にて生誕。昭和33(1958)年3月、県立高田商業高校卒業。一旦就職したが、プロのカメラマンの道を志すため退職し、東京写真短期大学(現 東京工芸大学)や新潟大学教育学部芸能科で写真家になるために入学・勉強した。新潟大学在学中は、長嶋吉太郎教授に見込まれ、京都・奈良等の国宝級の仏閣を訪れ、特別な許可を得て歴史ある仏像類を直接写真に収めるという貴重な体験を得ることが出来た。



昭和40(1965)年、大学在学中に結婚し、高田市で写真店を開業。短大在学中からアルバイトでカメラマンの仕事を始め、電通株式会社の撮影助手として仕事を続けた。カレンダー用の写真撮影の需要が増えていた昭和55(1980)年11月5日、世界最高峰のエベレストを自分の目で見て写真に収めたくなり、一人でネパールへ向かった。



美しく雄大なヒマラヤ山系の写真撮影と共に、エベレストの美しさと反比例するような村々の劣悪な環境に衝撃を受けた。首都カトマンズから東へ約300キロ。徒歩で往復2週間の旅程で訪れたシャンボチェ村。出会った子どもたちは、ほとんどがはだし。学校もそれとは気づかないほど粗末なものだった。村の子どもたちの様子は、戦後日本の混乱期の自身の体験と重なり、このままで良いのかと自問自答。ネパールの将来を左右するのは、この国の子どもたち。幼い子どもたちに教育の機会を与えることの重要性を認識し、学校へ通えない子どもたちが多くいるこの状況を打開すべく、ネパール東部のソルクンブ郡で学校建設を支援することを決意した。



校舎だけなら、50万円ほどで建てられる。平成元(1989)年、自らの援助で最初の学校がモンブン村に完成した。村人総出で地ならしを行い、石と岩で仕上げた手作りの校舎。わずか2教室で始まったこの学校への支援を続け、今では7教室に職員室や教員宿舎、トイレなども備えた立派な学校になった。



モンブン小学校 / ソルクンブ郡モンブン村

これまでに5校の建設を支援した。そんな自身の情熱が地元政府に影響を与え、昨年までにソルクンブ郡の42の集落全てに学校ができた。支援は学校の建設にとどまらず、教師を途切れることなく派遣してもらえるようソルクンブ郡の教育委員会との間にルートを構築した。また、中古ミシンを寄付し女性が収入を得られるよう裁縫教室を開く活動、畜産や農産などの農業支援も行っている。

特筆すべきは、女兒の若年結婚の改善である。ネパールの山村では生活力が身に付く30歳前後の男性が、12～13歳の女兒と結婚する習慣があった。肉体的に未成熟な女兒が結婚し、妊娠・出産するため、支援開始当時の母子死亡率は70%強。無事出産してもすぐ労働を強いられる状況に驚嘆した。村の大人たちの考えを変える必要性を痛感し、日本の産婦人科医の協力を得て、女性の結婚や出産に関する教育を始めた。多くの男性が反対する中、20年以上をかけて地道に活動を続け、女性は18歳まで結婚しないという習慣を定着させ、その結果、出産時の母子死亡率も改善され、ほぼ皆無になった。



全校生徒と共に／モンブン小学校

支援に訪れるたび、ヒマラヤの自然や人を撮り続け、これまでに地元の新潟でネパール写真展を7回開催した。この地の人々の喜びが、30年以上にわたりネパールの山岳地帯の村に心を寄せて活動を継続している原動力になっている。

◆ 経 歴

- 昭和14(1939)年 新潟県高田市(現上越市)南本町にて生誕
- 33(1958)年 新潟県立高田商業高等学校卒業、一般企業(電通)に就職
- 36(1961)年 東京写真短期大学(現 東京工芸大学)入学
- 38(1963)年 " 大学卒業
- 39(1964)年 新潟大学教育学部芸能科(単位取得)入学
- 40(1965)年 在学中に結婚
- 41(1966)年 新潟大学教育学部芸能科卒業
- 55(1980)年 単独ネパール旅行、ヒマラヤ写真撮影と共に、山麓の村々の惨状に衝撃
- 平成元(1989)年 ネパール東部ソルクンブ郡モンブン村に、初めての学校建設完成
- 19(2007)年 7月、「ネパールアシスト20年報告展」開催(7/12～16 於 市立高田図書館)
- 21(2009)年 第7回ネパール写真展(於 ふれあい会館/本町2)
- 24(2012)年 財団法人ソロプチミストSI札幌大会にて、社会貢献賞と千嘉代子賞を受賞
- 26(2014)年 新潟県知事表彰・上越市表彰を受ける
- 27(2015)年 4月、ネパールにて大地震発生(4/25 11:56)、余震(5/12)
5月、「ネパールアシスト35年報告展」開催(5/14～17 於 市立高田図書館)
ネパール渡航(5/22～ 地震見舞い金、テント(16張り)等の支援物資を届ける)
- 6月、「第1回ネパールアシスト報告会」開催(6/28～30 市民プラザ)
- 28(2016)年 5月、「第2回ネパールアシスト報告展」開催(5/20～22 市立高田図書館)
- 29(2017)年 3月、カトマンズ到着直後体調不良により、市内シーウィック病院入院(5日間)
11月、ネパール再渡航、ブンモチェ小中学校の新築工事進捗状況確認等
- 30(2018)年 6月、「第3回ネパールアシスト報告展」開催(6/7～10 市立高田図書館)
- 令和元(2019)年 6月、「第4回ネパールアシスト報告展」開催(6/6～9 市立高田図書館)
- 05(2023)年 9月、高田小町(本町6)1階多目的ホールにてトークショー出演(9/9)

◆ ネパールの主な学校建設支援

(1) モンブン小学校

- ・所在地(学校規模) …………… ソルクンプ郡モンブン村(7教室、職員室、教員宿舎、トイレ)
- ・建設期間(延べ) …………… 10年(1981～1990年)
- ・建設費用(含改築) …………… 約350万円(藤野私費&寄付金)

(2) サルーン小学校

- ・所在地(学校規模) …………… ソルクンプ郡サルーン村(2教室、トイレ、グラウンド&フェンス、校門)
- ・建設期間(延べ) …………… 2002年～2003年4月完成
- ・建設費用(含改築) …………… 87万円 現地労務費90%が勤労奉仕(公孫会一部費用援助)

(3) デク公孫小学校

- ・所在地(学校規模) …………… ソルクンプ郡デク村(2教室、教員室)
- ・建設期間(延べ) …………… 2003年10月完成
- ・建設費用(含改築) …………… 全額公孫会拠出75万円、他に関連費60万円

(4) プンモチェ小中学校

- ・所在地(学校規模) …………… ソルクンプ郡プンモチェ村(二階建/8教室、教員室、ホール、トイレ)
- ・建設期間(延べ) …………… 4年(2003～2006年)

平成27(2015)年のネパール大地震により、上記4校のうちモンブン・プンモチェの2校に甚大な被害が生じた。両校は鉄筋コンクリートで建て替えられた。

建設費については、人件費が無料で村人とソルクンプ郡内の人達の協力により、資金としては4千万円で完成。資金の大半がネパールアシスト上越に寄せられた寄付金で、藤野氏個人としては約4分の一を負担した。

◆ マスコミ取材・報道

(1) 新潟日報

- ・「ネパールで発生した大地震～」……平成27(2015)年5月22日(金)

(2) 上越よみうり

- ・「村人総出で厚い感謝」……………平成16(2004)年3月5日(金)
- ・「ネパール支援35年報告展～」……平成27(2015)年5月14日(金)

(3) 上越タイムス

- ・「こいのぼり発送～」……………平成20(2008)年7月25日(金)
- ・「ネパール地震の復興報告～」……平成28(2016)年5月21日(金)
- ・「4年ぶりネパールへ～」……………令和5(2023)年10月16日(月)／電子版
- ・「国際ソロプチミスト上越、寄付金～」……平成7(2024)年9月5日(木)／電子版



◆ 学校建設支援関連サイト(参考)

(1) しょうがっこうをおくる会／財団法人 日本フォスター・プラン協会(プラン・ジャパン)

- ◆ <https://www.nposchool.org/>
- ◆ https://www.nposchool.org/wp/wp-content/uploads/2017/03/01_complete.pdf

(2) ネパール学校建設支援プロジェクト

- ◆ <http://schoolnet.or.jp/nepal/>

◆ ネパールアシスト上越報告会(展)

<第1回ネパールアシスト報告会>

平成27(2015)年6月28日(日)10:00~12:00、ネパールアシスト報告会が市民プラザ第1会議室で開催された。

4月25日11時56分、ネパールにて大地震が発生し多大な被害が生じた。

5月22日より、テント16張り・見舞金等をもって現地ネパールに行き、29日に帰国。支援金をはじめ、資金の使用使途と現地の現状映像をもって説明した。



市民プラザ第1会議室

<第2回ネパールアシスト報告展>

平成28(2016)年5月、義援金などを寄せてくれた個人や団体に感謝する写真展「ネパールアシスト報告展」を、同市立高田図書館内小川未明文学館市民ギャラリーにて開催。午前10時から午後6時まで。最終日は午後5時。期間中は藤野さんが写真に即して現地の詳しい状況を説明。

展示パネルは48枚。首都カトマンズの象徴となる仏塔を、被災前の荘厳な姿と市民が手渡しで資材を運び復旧するショットで比較する。同市内の崩れた王宮や巨大なテント村、さらに藤野さんが長年、学校建設を支援してきた東部ソルクンブ郡のブンモチェ村ほかで次第に生活を取り戻す様子も伝える。

藤野さんは昨年4月25日と5月12日に大きな揺れに見舞われたネパールに、余震が続く山道を14時間歩いて現金やテントを届けた。その後も航空便や船便で必要物資を送り、今年2月と10月に現地を訪れた。

救援物資なのに関税を徴収されたり、政府関係者が約束を果たさなかったり歯がゆい思いも経験。街ではガソリンスタンドに車の長い列ができる一方で、配給を受ける警察官や軍人が高値で闇ガソリンを売る実情も知った。

山村の学校は復旧途上。建設従事者の日給が被災前の3倍に跳ね上がっていた。藤野さん自らが値切り交渉を行い、政府の支援も取り付けて今年11月には竣工(しゅんこう)の目途が立った。



小川未明文学館市民ギャラリー／高田図書館



ネパール国旗

<第3回ネパールアシスト報告展>

平成29(2017)年3月、ネパール渡航。ネパール首都カトマンズ到着後、すぐにADBアジア開発銀行ネパール支店を訪問、横山支店長に面会した。ADB開発銀行にはネパール震災後の道路復旧整備に大いに協力いただき、今回訪問予定の学校までの道路が復旧し、車で移動可能との知らせをいただいた。

支店長に謝意を示しADBを出た直後から体調が悪くなり、思いもよらずカトマンズ市内の外国人専用病院「シーウィック病院」に5日間入院することとなった。旅先(国内外)での何らかのトラブルはつきものであるがこの時も横山支店長にお世話になり、旅先での知人の有無について其の有難さを再確認することとなった。

平成27(2015)年4月、ネパールで大地震が発生し、各地に甚大な被害を及ぼし市民生活にも大きな影響が生じた。また、貴重な文化財にも破損等の損壊が生じ、世界中から支援の手が差し伸べられた。カトマンズ市内の8つの世界文化遺産は、修復作業が盛んに進められていた。空きスペースでは土産物店もオープン。カトマンズ市内は賑わいを取り戻しつつあった。

ネパールには同年11月にも再度訪問した。

参加者は、ソロプチミスト上越のお二人と、元小学校教員の石口先生ご夫婦と藤野の5人のパーティであった。

目的は、プルモチェ小中学校新築の進捗状況の確認と、モンプル小学校の生徒減少について、継続支援の在り方についての協議であった。

学校訪問では、プルモチェ小中学校とモンプル小学校を訪れ、学校視察と共にソロプチミスト上越の久保田・岩崎両氏から子供たち全員に、手作りのマフラーがプレゼントされた。

プルモチェ小中学校では、教育資金として10万ネパールルピー(邦貨で128,000円)を贈呈。モンプル小学校には、教材費として1万ルピー(¥12,800)を贈呈した。



<ソロプチミスト>

ソロプチミストとは、SOROR=姉妹、OPTIMA=最善 というラテン語から作られた言葉で、女性にとって「最良」の趣旨で、令和3(2021)年にはアメリカ、カリフォルニア州オークランドに誕生してから100周年となった国際的な女性の奉仕団体。

ソロプチミスト上越は平成10(1998)年に設立された。

◆公益財団法人ソロプチミスト日本財団……<https://www.soro-jpf.net/about/index.html>

<第4回ネパールアシスト報告展／敬称略>

令和元(2019)年6月6日、高田図書館(小川未明文学館市民ギャラリー)にて、第4回ネパールアシスト報告展(兼第39回藤野正二個展)が開催された。

今回のネパール教育支援の参加者は藤野正二、市川昭雄、信田純雄の3名での訪問となった。

機内預けの荷物総量が3人で90Kgとなったため、事前に100g単位の荷造りをした。



左から、藤野・信田(初参加)・市川(2回目)

◆ネパール訪問の日程

- | | |
|------------|-----------------------|
| 1日目(11/2) | 平成30(2018)年11月2日上越出発 |
| 2日目(/3) | 羽田空港～カトマンズ |
| 3日目(/4) | カトマンズ～ポカラ |
| 4日目(/5) | ポカラ |
| 5日目(/6) | ポカラ～ルンビニ |
| 6日目(/7) | ルンビニ～カトマンズ |
| 7日目(/8) | カトマンズ～ルクラ～パクディン |
| 8日目(/9) | パクディン～ナムチェ |
| 9日目(/10) | ナムチェ～シャンボチェ |
| 10日目(/11) | シャンボチェ～タンボチェ |
| 11日目(/12) | タンボチェ～パプルー～プンモチェ～モンブン |
| 12日目(/13) | モンブン～パプルー～カトマンズ |
| 13日目(/14) | カトマンズ一日観光 |
| 14日目(/15) | カトマンズ～帰国の途へ |
| 15日目(/16) | 帰国 |



マチャプチャレ 6, 993m／絵：市川
(通称：ネパールのマッターホルン)

右上の写真は、高田図書館(小川未明文学館市民ギャラリー)にての藤野写真展。生のネパールの現在を生き生きと活写・表現している。作品からのメッセージはいずれも重厚で胸に響くものばかり。

今回の同行者市川氏の水彩画による絵画報告作品もあり、ネパールの屹立した山々を実感できる。

今回はプンモチェ小中学校を訪問し、インスタントラーメン180食、鉛筆40ダース、全生徒にタオルを1本ずつ配布。右下の写真は、教育支援の一貫として上越地域の小中学校の作品を持参。学校の生徒との作品交流があり、その様子を撮影したほほえましい一枚の作品。

ネパールの子供達の幸せ、教育環境の一日も早い充実を願うばかりです。



◆ ネパール写真アラカルト／敬称略



モンブン小学校／最初1クラスでスタート、現在6クラス
とトイレ(別棟)。2000/11 引渡し、費用 2, 638, 650 円



サルーン小学校(公孫会高田支部)／公孫会費用援助、
生徒作品交換交流、2003/4 完成、2クラス(トイレ新築)



公孫デク小学校／公孫会高田支部社会貢献事業
2003/10 完成、2クラス。作品交換交流継続



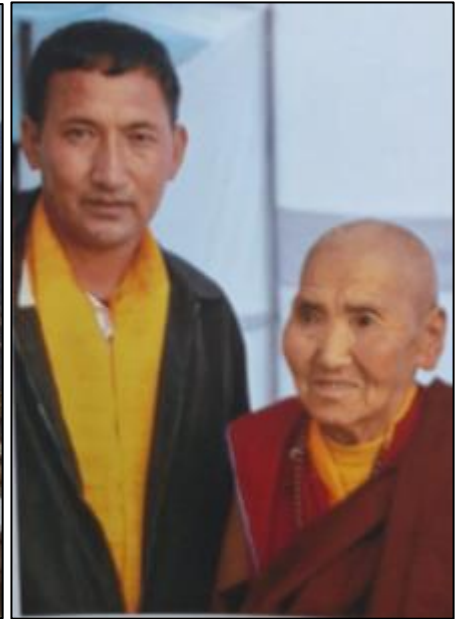
モンプチェ小中学校／2005/11 完成、7教室、教員室
二階建て、給食あり(ドイツの NPO が援助継続)



2010/2 左の仏塔がモンブンのシンボルとして完成。赤屋根が建て替えたモンブン小学校。右の青い屋根が教員住宅



2010/11 三和区、牧区、吉川区、板倉区、高田から同行サポーター増える
後方にエベレストが見える(エベレストビューホテル/シャンボチェの丘)



第1回ネパール訪問時からのガイドの
リンジ・シェルバ(隣は母親)



ネパール国立トリバン大学農業科教授チカ・ラム・アラヤル
先生。先生の手にはシイタケ、私の手は先生開発の万年茸



ブンモチェ小中学校の校長先生と教職員。教職員は12
名、そのうち2名は炊事担当。子供たちが当番で手伝う



高田北城高校に一年間留学したスピナ・スパさん。カトマンズ隣、バクタプルでお姉さん家族と一緒にした



2016.2.20 モンブン村出身者の新年お祝い会。村長さんから感謝状を頂きました。(シェルパ族は2/19が元日)



代表的な地酒「ロキシー」の一气飲み。酸味がありアルコール度は15度以上。アワやリンゴが原料で、美味。

次世代を担うモンブン村のかわいい子供たち



村長さんと記念撮影／ソルクンプ群8つの村の代表村長、ナム・ギャル・ギャンブオ・シェルパ村長(モンブン小学校卒業)

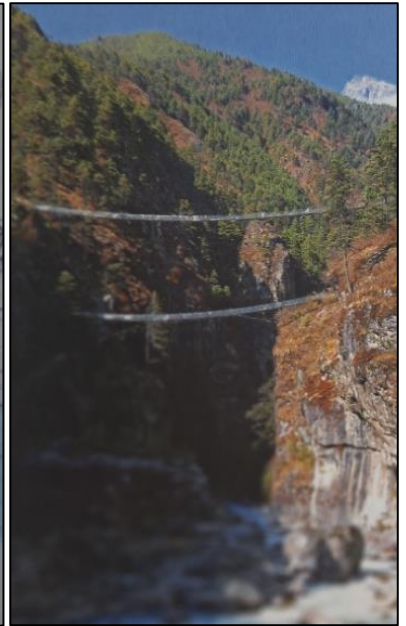
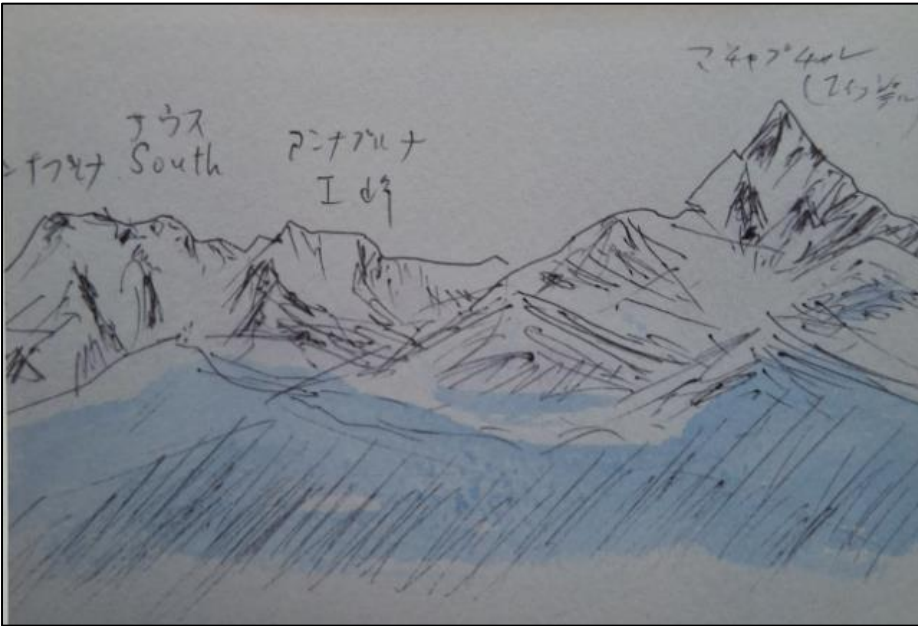


2017.11.5 早朝のエベレスト／撮影：藤野正二



2018.11.8 プンモチェ小中学校女子寮(左)、男子寮(右)を引き渡しました

上越市内小中学校の作品を持参(作品交換交流継続)



2018.11 中国国境の雄大な山塊／絵(水彩):市川昭雄

エベレスト街道で一番高い吊り橋 立つと目も眩む「天空の橋」

